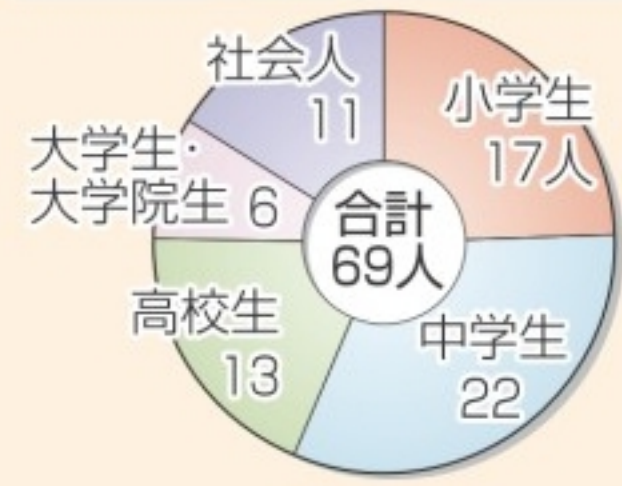


やってみよう!! ワークシート



新聞には毎日、たくさんの記事や写真、広告がのっています。世界的な大ニュースから身近な地域の話題までさまざまです。神戸新聞社は、その中から知ってもらいたいことや深く考えてほしい記事を取り上げ、ワークシートを作って自宅学習などに活用してもらっています。今回は、家族の世事に日常的に追われる若年層「ヤングケアラー」の支援についてです。

神戸市が1年間で支援した
こども・若者ケアラーの年代



※2022年5月末時点

ヤングケアラー 69件支援

家族の世事に追われる子どもたち



神戸市は8日、家族の世事に日常的に追われる若年層「ヤングケアラー」について、相談窓口を通じて1年間で69件に支援を実施したと発表した。うち、当事者が小中学生のケースが39件で、半数以上を占めた。本人や家族と面会できたのは25件にとどまるなど、直接の支援が難しい課題も明らかになった。

神戸市の相談窓口 小中学生が半数超

市は昨年6月1日、全国の自治体で初めて「こども・若者ケアラー相談・支援窓口」を市立総合福祉センター（同市中央区）に開設。社会福祉士や公認心理師などの資格を持つ職員が対応に当たる。

市によると、今年5月末までに受けた相談は計176件。うち匿名や市外からの連絡などを除いた69件についてサポートを行った。

具体的には、家族のケアを担い不登校傾向だった小学生の負担軽減のため、ヘルパーの利用回数を増やした。認知症の祖父母を世話する20代の社

会人には、施設への入所を検討してもらうなどした。

69件の当事者の内訳は、小学生17人▽中学生22人▽高校生13人▽大学生・大学院生6人▽社会人11人。本人の相談はわずか9%で、学校などの関係機関から約8割を占めた。

また、家族の世話を「当たり前」と認識していたり、行政に不信感があったりして、44件で本人や家族と面会できなかった。久元喜造市長は8日の定例会見で「支援の難しさが浮き彫りになった。本人につながる関係機関との情報共有を大事にしたい」と話した。

6月9日の朝刊にのった記事

①「ヤングケアラー」とは、どんな人のことを言いますか

③窓口が支援した数には、どんな特徴がありましたか

④具体的にはどんな支援がされましたか

②神戸市は昨年、全国の自治体で初めて「こども・若者ケアラー相談・支援窓口」を開設しましたが、1年間の相談件数は何件でしたか

答えは7月3日の「週刊まなびー」にのるよ。



⑤1年間の取り組みでどんな課題が浮かび上がりましたか

もっとワークシートをやってみたいと思った人は、電子版「神戸新聞NEXT」の「神戸新聞NIE」コーナーでワークシートを検索してみてください。たくさんあるので興味のある新聞記事を選んでね。今回のワークシートの答えは、メール(kobe-nie@kobe-np.co.jp)か、はがき(〒650-8571 神戸新聞社「週刊まなびー」ワークシート係)で、名前と学年、または年齢を添えて7月2日必着で送ってね。正解者の中から、抽選で毎月10人に神戸新聞の記念品をプレゼントします。

19日週刊まなびー

ワークシートの
解答例

- ①1995年1月17日午前5時46分
- ②6434人が犠牲になり、3人が行方不明、約4万4千人が負傷、約25万棟の家屋が全半壊した
- ③北淡震災記念公園（淡路市）に保存されている野島断層
- ④道や生け垣がずれた約140㍍の断層が保存されていて、東側が約50㍍盛り上がり、南に1㍍ずれた地形を近くで見ることができる
- ⑤自由記述